

【憑依】魔剣士ピサロの 冒険

あかた01

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

ふと目覚めたらある敵キャラに：

「あつてもクリア後の世界で救われるからセーフ」

クリア後の世界なんて（この状態で）あるわけないだろ

いい加減にしろΣ\（。D。；）

今、魔物たちが村を襲ってるけどどこへ何処？

山奥の村？ ひきあげじゃあ？

やばい： どうあがいても裏切られて嵌められそうだし

とりあえず導かれし勇者達に媚び（？）売つといて、ゴットサイドに大穴開けて、口

ザリーの護衛を増やして、モシヤス状態のシンシアをロザリーヒルに誘拐して凍てつくでモシヤス解いてロザリーと一緒に居てもらえば良くね？

あ、勇者御一行がエクターク倒したあ

あれ？何か人、多くない？え、勇者双子!?

マジかあ：マジかよ

とか色々やっていたら大きな影が私を覆い被して……

活動記録にて1話の原案を載せました。

目次

設定（ネタバレあるかもしれないけど一応見てね）	1
目覚め	9
紹介別れ決意	16
竜神王の試練	21

設定（ネタバレあるかもしれないけど一応見てね）

くまず初めにく

一応この小説の主人公はピサロとなっていていますがドラクエ4ではなくドラクエ8が舞台となります。

番外編でドラクエ4を舞台にするかも

・神鳥について

原作では影の世界に封じられている（弱っているだけ？）でしたが、それが変にネジ曲がつて天空の世界に繋がったという設定です。

ピサロをドラクエ8の世界にら…誘か…連れ込んだのは

色彩の世界じゃないみたいだけど取り敢えず強そうだったから…足で掴んだ。あつ落としちやつた（◇ω・）ウツカリ

魔物について

魔物ですが人間や主人公達を襲うなどをしてますが

襲うのではなく

イタズラ、遊び、として同族にするように襲いかかっています。

結果、一部の人間は貧弱なので死にます↓魔物が危険視されると言うことです。

(アイデア?はドラクエ9です。冒頭のズッキーニヤとスライムが襲いかかると言うよりも人に気が付いてイタズラしようとしているように見えたからです。)

ピサロの部下の一部も侵略ゴツコだと思っています。(ドラキーとかそのあたり)

ピサロの部下で各章でボスになっている魔物は本気で人間を滅ぼそうとしています(

モンスターが仲間になる(スカウトモンスター)のは遊びだと思ってる。例えば、この人間に付いていけば面白そう、強くなれそう、願いが叶いそうなど

その為言葉は交わさなくても協力してくれる。という設定

魔物達で本当にヤバイのは人間の血肉を喰らった魔物。

その味を忘れられず人を殺す個体。(…クマかな?)

それ以外の魔物の攻撃で力尽きても気絶になる(鍛えてる人間のみ)。イタズラ、遊びだからね

詳しい理由は次の項目で

・蘇生魔法について(ザオ系について)

ザオラル、ザオリクによる呪文で死んだ人間は生き返らない。死んだ人間が生き返る

方法は『世界樹の葉』もしくは『メガザル』のみ

冒険者達の中で死者が出た場合、死者なく帰還するには

死者がでた（唱えるなら複数でたら効率いいね）↓メガザル↓メガザルした人に世界

樹の葉↓全力で逃走する。

もしくは

奴隷（もしくは犯罪者）を買う（メガザルの腕輪を装備（無理やり）↓全滅する

メガザルの腕輪発動↓全力で逃走する。

前者は信頼関係が求められる上、度胸がいる（メガザルを唱える勇氣、勇氣とはまた違った気持ち（？）、世界樹の葉を飲ませる行動力、純心さ）せつかくメガザルしたのに蘇生させてもらえず逃げられたら目も当てられない

後者は非人道的だという批判が相次いだため

教会や宿屋でそれらしい冒険者を見つけたら牢屋行きになった。

つまり、いのちだいじに

敵わないと思ったら逃げる。※帰ろう帰ればまた来れるから

ホイミ系はかけられた人の自然治癒力を高め体力を回復するそれに対し

ザオリク、ザオラルはその自然治癒力だけでは直ぐに動けない、回復しない時に使う

（気絶なども含む）（※V I I 小説参照）

自然界の魔素を取り込み人に与える的な
魔素については次の項目で

・レベルアップについて

この小説ではレベルという概念はありませんスキルはありますが：

魔素。魔力の源 魔物がもっている 人には素質に左右される。自然界にもある。

魔物を倒した時に消滅する魔物が人に取り込みやすい魔素を出すためそれを吸い込んだ人は強くなったり魔力が増えたり呪文を習得したりする。(ゲームのレベルアップ概念)

メタル系は放出する魔素が最も多い、質がいい(メタル狩りの概念)

ドルマガゲスさんは素質が少なかったんですね(ゲス顔)

魔素：どっかで見たような設定だけど……

どっかで見た気がするんだよな…… 思い出せないけど

パクルつもりは無いけどパクつちやつてるかなあ……？

魔力とは違うものと区別したかった。

ゲームのレベルアップとメタル系をリアルにして辻褃合わせしたらこうなった。こ

う：ふわつとしてもわつとしてキラキラしてるものです。(語彙力エ)

・ピサロスキル一覧 (スキルポイントはV I I I Iキャラをいじった感じですよ。

剣スキル

4 剣装備時攻撃力+5

9 【しっふう斬り】

15 【かえん斬り】

22 剣装備時攻撃力+10

30 【メタル斬り】

40 剣会心確率上昇

52 【はやぶさ斬り】

66 剣装備時攻撃力+25

83 【魔人斬り】

100 【さみだれ斬り】

魔法剣スキル

12 【ディバインスペル】

22 剣装備時MP+15

32 剣装備時かしこさ+20

42 【ミラクルソード】

- 50 【魔剣乱舞】
 - 60 【ドルマドン】
 - 70 【ジゴスラッシュ】
 - 80 【魔剣一閃】
 - 90 【ジゴスパーク】
 - 100 【魔界の終末】
- 杖スキル
- 3 【ラリホー】
 - 7 【ベホマ】
 - 13 【ドルマ】
 - 21 【ドルクマ】
 - 31 【ドルモア】
 - 44 常時MP+30
 - 57 【マホカクタ】
 - 70 【いてつくはどう】
 - 84 【マヒャデドス】
 - 100 【メラガイアー】

7 設定 (ネタバレあるかもしれないけど一応見てね)

格闘スキル

7 素手時攻撃力+7

14 【大ぼうぎよ】

21 素手時身かわし率上昇

28 素手時攻撃力+15

35 【バイキルト】

42 【ムーンサルト】

54 素手時会心率上昇

68 【やいばのぼうぎよ】

82 素手時攻撃力+40

100 【マダンテ】

?????
スキル

8 【ルーラ】

16 【トラマナ】

28 【ベホマラー】

40 【ザオリク】

48 【ドラゴラム】

目覚め

?? 「んっ、…ここは何処だ」

そうつぶやき銀髪ロングの男が身体を起こし、周りを見渡した。

ピサロ「む…見覚えの無い場所だな…」

確か、突然周りが薄暗くなったと思ったら衝撃が走った事は覚えておるが…」

その男、ピサロの前にはそこそこ大きい池があり、山や森が視界に入る

ピサロ「だが、水源が近くにある事は僥倖か…」

しばらく野宿をしても余裕はできそうだがそれではつまらん。このあたりを探索するでしょう。」

そう言うとピサロは腰に提げた剣をサヤごと取り出した。

ピサロ「地図なし方角不明だが問題ない。何時もこの相棒と生死を共にしてきたのだからな」

剣の柄頭を地面に付けそつと手を離す

パタン

ピサロ「うむ、そちらか」

ピサロは剣先の向いた方に歩き出した。

—————

ピサロ「……ここで行き止まりのようだな……戻るとするか

………む？このような奇妙な所に扉があるのか」

ガチャガチャ

『トビラには鍵がかかっているようだ。もっている鍵では開きそうに無い』

ピサロ「戻るか」

ピサロ「しかしどうするか……ん？」

ピサロは地面を軽く眺めた。

ピサロ「この草、少し踏まれた跡があるな、

一本の道ができる程度には。決まりだこの道を進もう」

—————

ピサロ「ほう……デカイな、見るからに王国と言った所か」

兵士A 「開門!!」

兵士B 「王子!ご武運を」

?? 「ああ、行ってくる」

キヤーキヤーワイワイガヤガヤ

王子と呼ばれた青年は馬に跨ると颯爽と駆けていった。

ピサロ 「ただ外に出ただけの話なのに、

これほどの騒ぎになるのか…」

ピサロのつぶやきが聞こえたのか兵士の一人がピサロに話しかけた。

兵士 「これから試練に行くからですよ」

ピサロ 「試練?」

兵士 「王家の山に住むアルゴリザードに挑み、体内で精製される宝石アルゴンハートを持って帰ることですよこの試練が王位継承権であるためこの国の未来を決めるようなものですね」

ピサロ 「…その試練とやらは見学できるのか?」

兵士 「無理ですね…王家の山の場所はまず王族しか知りませんし。今から追い掛けても間に合いませんから」

ピサロ 「…」

ピサロは目を閉じ精神を集中させ先程見た青年の魔素を探した。
兵士「おにいさん見たところ冒険者みたいだが町に入らないのかい？」

ピサロ「…ああ済まない。少し寄るところができたからな…」

—————

??「たあ！テヤア！はっ！」

男とドラゴンが対峙していた。

男が剣を上段から斜めに切り結ぶがドラゴンはそれを躲しその場で回転すると尻尾で薙ぎ払う

男は襲いかかる尻尾を剣の腹で受け流し反撃に転じる

??「これで終わりだ！」

男の剣がドラゴンの腹を突いた。

アルゴリザード「グオオオオオ!!」

ドラゴンは叫ぶと何かを吐き出し逃げ去った。

??「ふう…こんなぐらいかな」

男の手には何個か宝石が乗っていた。

ピサロ「見事なものだな」

??「!?」

ザツと地面を鳴らし居合いの構えで警戒した。

??「誰だ!?ここは知る人しか分からない場所だ何故ここにいる」

ピサロ「先程、門から出ていくときに出会った。」

そのタイミングで貴様の魔s：魔力を探ってここに来た。」

ピサロが姿を表したが男は警戒を解かない。

ピサロ「辞めておけ、その剣わざと刃を潰しているだろう。そのおもちゃで勝つつも

りか?」

??「…そうだな」

男はつぶやくと体勢を自然体にする。

ピサロ「我はピサロという者だ。王子とやら、

なかなかの腕だな」

??「名乗りが遅れたな：僕の事はエルトリオと呼んでくれ。それとこの剣は切る為の

剣じゃない叩き潰す為の武器だ…。

それに無闇に魔物達を殺してしまわない為にな…」

ピサロ「なに？」

エルトリオ「魔物達にも暮らしがある。

こちらの一方的な都合で殺して良いなんておかしいと思つてな」

ピサロ「ふふ…ハツハツハ！ なかなか面白い事を言うのだな…」

所で試練とやらは終わったのだろうか？ 日が暮れてきた…下山しようではないか」

―王家の山周辺―

??「すう」

エルトリオ「ん？ピサロ何か言つたか？」

ピサロ「いや？何も言つてないが？」

エルトリオ「空耳だったのかな…？」

??「すう…スヤア」

ピサロ「！今のは我にも聞こえたぞ

…ここだな」

そこに居たのは

木にもたれ掛かる様にして眠っている変わった服を着ている女性だった。

エルトリオ「…い」

ピサロ「ん？」

エルトリオ「可愛い　一目惚れした。ユウワマイえんじえる!!名前も知らない女性ですが僕の伴侶にします。僕、こう見えて王子なんですよ!玉の輿ですよ!最良物件ですよ!」

ピサロ「エルトリオが壊れた。

…いや…せめてその女性が起きている時にだな」

??「むにやあ　あれ?ここどこです?」

エルトリオ「僕の名はエルトリオ。それでこつちの銀髪がピサロという者ですよ。可憐なレディ貴女の名前を教えてもらえるかな?」

ウイニア「ウイニア」

エルトリオ「ウイニア…いい名前ですね…」

しかしこんな所で寝ていては危険ですよ。近くに僕の国があるので御招待しますよ。……もちろんピサロ殿も」

ピサロ「あ、ああ済まない。」

ウイニア「へえーよろしくね。エルトリオ、ピサロ」

紹介別れ決意

―サザンビーク城内―

エルトリオ「只今戻りました。この通りアルゴンハートを手に入れて参りました。」

王様「ふおつふおつ流石だのうエルトリオ

所でその二人は誰か紹介してくれんかのう」

エルトリオ「失礼しました父上。こちらがピサロという

旅人だそうだ。僕の試練の帰り道に偶然遭遇して意気投合したと言いますか…」

ピサロ「…国王様

お初にお目にかかります。ピサロと申します。今後とも迷惑をおかけするかもしれませんが王様が王子とは長い付き合いになると思います。」

王様「ふむ…つまりは友達じゃな…良い良い

見たところかなりの武人じゃろうて息子も退屈しなくて済む…いい事尽くめじゃわ
い」

エルトリオ「所で父上にお問い合わせしたい事があります。」

王様「なんじゃ？そちらの女性の紹介もまだじゃが…」

エルトリオ「はい、実はこのアルゴンハートをアルゴンリングに加工してくれる。職人を紹介して欲しいのですが…」

ザワザワ…ザワザワ…ザワ

エルトリオ「こちらの女性はウイニアと言います。僕の婚約者です。」
な、なんだってー

ウイニア「ねえ…ピサロ？こんやくしやつて美味しいの？」耳打ち

エルトリオ（ジロツ）

ピサロ「む？…美味しくもあり苦くもありなんとも言えない物であろう…」耳打ち

エルトリオ（ゝ・ω・）bグッ！）

ウイニア「うん、こんやくしや こんやくしや！」

王様「こりやめでたい孫の顔を死ぬ前に見る事が出来そうじゃのう」

大臣「王様！縁起でもないような事はお控え下さい」

王様「すまんのう…ではエルトリオよ

早速リブルアーチから職人を呼ぶとしよう

ピサロ、ウイニアよ今より部屋へ案内するどうか我が家だと思ってくつろいで欲しい。」

王様がそういう手を叩くと使用人が2人出てきて2人を案内するな動作を見せた。エルトリオ「あ、いいよ。ウイニアは僕の部屋に案内する君は下がっていいよ」
使用人B「はっ」

ピサロはサザンビーク城に泊まり、長いようで短かった1日を終えたのであった。

—————

ウイニア「ふふ、エルトリオのお話はなかなか面白かったですよ。人の色々な生活が聞けてまた今日もお願ひしますね？」

ピサロ「昨晚は？」

エルトリオ「お楽しみじゃなかったです」（吐血）

そして1週間後…

—————

王様「さて、今日はリブルアーチの職人が完成したアルゴリングを届けに来る日だ。わかっておるな？ エルトリオ」

エルトリオ「はい、もちろんです。父上

ウイニアの事を幸せにして、サザンビークを導く国王として精一杯頑張ります。」

兵士A 「王様、大変です！大変です！空からドラゴンがこちらに向っています！」

パリーン

?? 「騒がせたな…さてウイニアよ帰るぞ？」

ウイニア 「お父様…帰りません、私はエルトリオと共に暮らします。」

?? 「ならぬ！ならん!!人間と竜神族が共に過ごすなど夢物語もいところじゃわい！
さて帰るぞ」

老人(?) がそう言う姿をドラゴンに変えウイニアを連れ去った。

ウイニア 「エルトリオー！」

エルトリオ 「ウイニアー!!」

—————

ピサロ 「おい、エルトリオ何をしている？」

エルトリオ 「止めるなよピサロ。ウイニアの元に向かう

あの王家の山で言った様にウイニアの居場所はピサロにはわかるんだろ？教えて欲しい…」

ピサロ「……………何を言ってるんだ

乗り掛かった船だ我も行くに決まっているではないか」

竜神王の試練

ピサロ「よし、エルトリオ着いたぞ」

エルトリオ「ここが？」

ピサロ「ああ、この高台の上までウイニアの痕跡はあるみたいだがそこで途切れてい
る…それに妙な気配も感じるぐらいか…」

エルトリオ「まあなんにせよ登るしかないさ」

城抜けて来たんだし手ぶらでは帰れんわ」

ピサロ「は？おま？」

エルトリオ「大丈夫、置き手紙書いておいたから」

ピサロ「…言ったら言ったで止められそうだな」

—————

―高台―

エルトリオ「これは…遺跡？石版…？不思議な感じがするな」

ピサロ「ふむ…どうやら転移ポータルのようなものだな」

…おい、無闇に触るな

…遅かったか」

エルトリオとピサロは光に包まれると洞窟(?)にいた。

ピサロ「仕方無い…エルトリオ！ここを抜けるぞ」

エルトリオ「おう！」

—————

?? 「…ト…オ…エル…エルトリオ」

エルトリオ「ん、ああ 少し疲れたみたいだ」

ピサロ「そ、そうか…まあ気休め程度だが…『ベホマ』」

エルトリオ「すまない…少し休むよ」

ピサロ「ああお休み。」

—————

エルトリオ「着いた…ここが あの女のハウスね」

ピサロ「…しかし扉は押ししても引いても開かないようだが…」

ピサロは扉を開けようとするがびくともしない。

ピサロ「鍵穴も特に無さそうだが…」

エルトリオ「ピサロ…退いて」

ピサロ「ん？っておい」

エルトリオ「うりやー」

『エルトリオの攻撃、会心の一撃！扉に358ダメージ』

扉は粉々に砕けちった』

エルトリオ「ね？簡単でしょう？」

ピサロ「」

—————

??「来たか、君たちが来るのは気配で分かった…

しかし、ここにたどり着いた人間は久しぶりだ…

長老達には既に話を付けてある…」

男はそう言うときめの建物を指さした

??「あの建物の地下のダンジョンの奥で待っている。見事、私の元にたどり着き我を打ち負かせば何か褒美をやろう。なに、竜神王の試練だ」

竜神王「では、待っているぞ」

そう言うとき男は2人目の前から消えた。

エルトリオ「こつちにウイニアが居るな…」（スタスタ）

竜神族の男性「申し訳ない御客人こちらから先はグルーノ様より誰も通すなど申しつ

かっておりますのでお引き取り下さい」

竜神王の女性「ウイニア様は今落ち込んでおりますので…あなた方が来たのもまだ知らされていないのです。竜神王様が何か仰られたはずですよ。そちらから手をつけてみてはどうでしょう？」

—————

ー竜神王の試練ー

『竜神王は力を貯めた しんくうは 平均125ダメージ』

エルトリオの攻撃、会心の一撃359ダメージ

ピサロはデイベインスペルを唱えた竜神王の呪文耐性が下がった

竜神王は力を貯めた竜神王は力を貯めた

エルトリオの攻撃会心の一撃！427ダメージ

ピサロは賢者の石を使った二人の傷が癒えた

竜神王のしんくうは 平均285ダメージ 竜神王は瞑想した竜神王の傷が癒えた

エルトリオの攻撃会心の一撃394ダメージ

ピサロの魔剣乱舞合計567ダメージ 竜神王はドルマ系に弱くなった

竜神王は様子を見ている竜神王は力を貯めた

エルトリオの攻撃会心の一撃428ダメージ

ピサロの魔剣乱舞合計683ダメージ

竜神王は力を貯めた しんくうは平均286ダメージ

エルトリオの攻撃会心の一撃468ダメージ

ピサロの……竜神王の……エルトリオの会心の一撃……

……竜神王の試練をクリアした。』

—————

竜神王「見事だ……挑戦者よ貴様は何を望む？強い武器か？強い鎧か？富か？力か？なんでも一つ叶えてやろう」

エルトリオ「ウイニアを僕に下さい。」キメ顔

竜神王「私も長老達も昔の考えに凝り固まっていたのかもしれない……新しい風を……人間を受け容れるのも……我らには必要なかもしれない……」

竜神王「良いだろう……何？心配するなグルーノには既に話しておる……グルーノの自宅のベランダに飛ばしてやろう……さあ行ってくるがいい」